



武庫の宝

令和7年 7月号



三田市立武庫小学校長 大向 勲

《1 学期末を迎え思うこと》

1 時間目が始まる前の教室をめぐった時のことです。当たり前のように積み重ね、できるようになっていくこと、例えば「キッピー体操」。椅子に座ったままでできる筋肉や関節を伸ばすストレッチ体操です。その様子を今年武庫小に転任された先生が「みんなが上手にできるので驚きました！」とおっしゃいました。ストレッチはなかなか難しいものもあり、わたしは恥ずかしながら同じようにできません。これまでの積み重ね、まさに「継続は力なり」を感じました。



子どもたちの朝の読書の様子を見ても、継続や環境を整えることの大切さを考えさせられました。朝読書の時間に教室を訪れると、普段私が教室に入ってくるといち早く気づいて反応してしまう子もいるので気を遣う（集中しているのに邪魔をしてはいけないと…）のですが、その時は全く気づかず読書をする教室の空間、雰囲気逆に気を遣ってしまうほどです。



本を読むことの大切さはいろいろなところで語られ、同時に本離れを憂慮した話はもう私が学生の頃から聞いたことがあります。そんな中でその「瞬間」に見える本に向かう子どもたちの姿は、とても頼もしいものです、とても本離れを感じさせるものではありません。しかし、それでは普段子どもたちが本をよく読んでいるかということ、必ずしも言い切れるものではない、個人差も大きくあるでしょう。

聞くとところによると、1999年日本の書店は約22000店あったそうです。それが15年後の2014年には14000店、現在10000店をきっているそうで、今なお書店数は減り続けているそうです。そういった意味では私たち大人も含め、暮らし自体本に出会う環境がどんどん減ってきているということになります。ですから学校での朝読書という時間は改めて貴重だと感じます。図書室はもちろんですが、数は少ないですが各学年のフロアにはすぐに手に取れるよう本があります。その中にはとても学年に応じて魅力的なものもあります。また読み聞かせボランティアのみなさんが本に出会う素敵なきっかけをつくってくださっているのも、素晴らしい環境です。

あと3週間で夏休みとなります。とてもとても暑い夏となりそうです。たくさんの経験をしてまたひとつ子どもたちは成長するその夏休みに、読書もその経験のひとつにしてもらえたらと思います。積み重ねや継続によって、どの子にも必ず力となります。環境を整えるお力添えをどうかよろしくお願いいたします。